九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[025] 総合文化学論輯表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/7452626

出版情報：総合文化学論輯. 25, 2026-11-01. 総合文化学研究所
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

編集・運営メモ

① 編集上いつも問題になることですが、本号では特に寄稿者自身の論文に対する考え方の迷いについて考えるべきことが多かったような気がします。論文ですから基本的には論旨を読者に伝えなければならないのですが、その方法は千差万別。それゆえ査読では、執筆者と査読者の間に何度も意見交換をしたり、あえて異なった意見を持つ査読者に依頼したり、など苦労するのは常識です。その複数査読の工夫の一つとして当会では、メール添付方式によるシンポジウムで、提題者は一般的な対面でのシンポジウムの何倍もの量の論文を提起しそれに多くの会員がやはり大部のコメントを加え、それに提題者は返答し、さらにそれを繰り返すというスタイルで、論文を仕上げていく作業を行ってきました。

その際、それぞれの執筆者のそれまでの教育の過程で学んだ論文執筆の手法が異なって査読評価が割れる場合にも遭遇します。資料の引用に於いても領域に於いては４００字以上の連続引用を避けてその都度引用のポイントをまとめて進行しなければならないという場合もあれば、引用は必要なだけ原著連続引用をして自分の意見は特に加えずその引用の組み合わせから筆者の主張を推測させる、という場合まで幅広い方法がとられます。また、若いうちは先行研究を多数引用して熱心さをアピールするものの、例えば哲学においては、過去の偉大な哲学者の歴史に残る晩年の名著はそのオリジナリティゆえに引用さえ殆ど無く説得する論理のみで終始しているくらいです。また症例や歴史のような事実を生の形で残す場合にも、あえて、主観的考察を避けなければなりません。

多くの学会では、論旨さえ読み取れれば良いといことで、どのようなスタイルでも受け入れるのが常識ですが。執筆者において、例えば何らかの事情で指導者が変わったりする場合には指導者の執筆スタイルのこだわりに翻弄されることもしばしばです。学会としてはそこまで踏み込むわけにはいきませんので、その先は執筆者の意思や事情に従うことになりますが、社会経験の乏しい若い研究者が、学術界の裏事情を認識しないままあえて不利な道に足を踏み入れているのを看過するのには辛いものもあります。

これまでもこのような例にはしばしば出会いましたが、お気づきのように当学会の編集においては他学会同様、多様性重視の観点から内容に応じた正確な資料を用いて論旨や主旨さえ明瞭であれば受け入れるという柔軟な態度をとってきたことはご理解の通りです。

以上、編集作業における悩みをも述べましたが、昇進や就職における評価基準は、第一に論文の質＆量、第二に教育実績、第三に大学運営実績、第四に社会活動の順であることはかつて文科省も言及している通り。当論輯は第一に関するものであるだけに、意欲的な投稿者に応じて編集もしっかり構えて行きたいと思います。

②当会の論輯は総合文化の名にふさわしく、多様な領域の論文は勿論、研究ノート、資料、写真など総合的な資料を掲載します。今後とも会員の皆様のご尽力をお願い申し上げます。

③新型コロナウイルス感染拡大を契機として、メール方式でのシンポジウムを試みていますが、対面にはない質の高さを得ることが分かり、この方式は維持していきたいと思います。今後とも対面方式を含めて様々な在り方を追求してみたく存じます。

④2014 年 4 月 1 日、総合文化学会とその運営組織としての総合文化学研究所が発足しました。先立つ母体としての比較思想学会福岡支部が全国学会として独立してのことで、比較思想学会にはことのほかお世話になりました。今後とも親密な関係を保って運営していきたいと思います。また、地方支部ではできなかった、全国各地や海外の会員も参加して下さって、その領域も総合文化にふさわしく広範な領域にわたり、豊かな出発となりましたことを感謝申し上げます。

⑤2016 年 4 月 1 日を以て、地域健康文化学会・地域健康文化学研究所を吸収する形で統合しました。

⑥本誌は、国立国会図書館のご好意により ISSN を得て、電子情報として公開されています。（検索：国立国会図書館→総合文化学論輯）御礼申し上げるとともに、今後とも、不手際の無いように、発刊ごとに送付しなければなりません。

⑦本誌は、九州大学附属図書館学術情報リポジトリに全巻電子的に保存され全世界からの閲覧が可能となっています。

（検索：**総合文化学論輯｜九州大学附属図書館**）

発刊ごとに確実に送付しなければなりません。

⑧本誌は、ＣＤロムというメディアで刊行します。音声資料、写真など、今後ともＣＤロムという性格を活用して、さまざまな試みを行っていきたいと思います。アイデアをお寄せいただければ幸いです。

⑨年度末、年度途中に関わらず、常勤・非常勤を通して会員の異動があります。現実を踏まえて勤務先や肩書きの表記は以下のように行います。

口頭発表に関しては、発表時の立場を記します。

掲載論文については、異動前の立場を記すとともに、

編集時に確定しているものは異動後の立場を注記します。

⑩本誌原稿には、専攻、授業科目などなるべく詳しく記します。
特に、学生や専任の教職以外の方は自己紹介の意味を含めて詳細にご協力をお願いしました。感謝申し上げます。

⑪講演の場合には、内容の書式と資料を整え論文にふさわしい形にするなどし、
また、書評、調査資料、文献資料、企画資料など、資料として保存しておきたいものや、絵画、写真、音声、文芸作品などの掲載をも行います。
特に、タブレット端末を利用し電子書籍を教科書に用いる授業も現れてきました。
講師が作成する資料は当面は当該大学、学校の内部システムに登録することになりますが、その場合は、卒業以降に呼び出すことは出来ません。そのような意味であえて一般的に閲覧可能なシステムに登録する方式が便利な場合もあります。
一例ですが、例えばその方が便利だというような資料を、本誌資料コーナーに掲載しておくことも可能です。

⑫掲載論文については今号も事務局の責任で複数回の査読を実行いたしました。
論旨を確認しつつ何度も読み、それに基づいて手を入れていただきました。
関係各位に感謝いたします。
なお、当会や信頼できる学会、研究会で議論された事実も査読の一部に加えます。
真摯な議論を期待いたしますとともに、論文投稿の前に、各学会、研究会において積極的にご発表願います。

⑬ 各学会で査読の際に問題になることで、論文の学術的質の問題があります。
一般的には、先行研究を意識し、論理と論拠の充実度を以て質を評価しますが、他方、著者なりのオリジナリティにおいては必ずしもその基準にそぐわないものもあります。また、査読者のバイアスにおいて、例えば量的研究は認めるが、質的研究は認めないなどの問題が起こることもあります。
研究とは本来自由であるべきではありますし、当学会の目的の一端には学問の底上げもありますので、教条的にならずになるべく多様な論文を認め掲載していきたいという方向性です。論文である以上、査読者のバイアスは無くし、読者に理解できるだけの論拠と論理を軸にして頂くよう、査読者には心得て頂いております。また、症例報告のような場合にはプライバシー保持の義務を厳格に遵守して頂くようにお願いします。

⑭「総合文化学会論輯」(CD ロム)は、総合文化学会の運営システムとしての総合文化学研究所の機関誌をも兼ねておりますが、これまでその方面の機能をあまり発揮してこなかったように思われます。そこで、皆様にご確認、お願い申し上げますが、本誌はクラウド化する役割をも担っており、アーカイブ機能を持つのにふさわしいので、残しておきたい記録写真

（昭和の何気ない日常写真でもいつの間にか歴史的風俗的価値を持ってきたりもしています。）などや、日常の学生レポートの指導や卒業論文などの教育指導記録などを会員各自の責任で投稿して頂きたいと存じます。（当然ながら、資料としての時、所、キャプション、コメントなどを付けて頂くとともに、プライバシー保護に務め、会則に記しているように思想的政治的中立性を保持するなど、当学会にふさわしいものをお願い申し上げます。）

⑮口頭発表やシンポジウムは原則として、事務局に依頼された時点で、日程調整、会場予約などを行います。小規模学会ならではの、学問的底上げを意識して、大規模学会のように短時間発表、短時間議論で時間に追われるのではなく、じっくりと議論することを目的として、一人につき１～２時間くらいの時間帯を準備し十分に議論しますが、申し込みが多数の場合は、シンポジウム形式のように、それぞれの発表が相互に連関できるものを優先的にとりあげます。早めの申し込みをお願いします。なお、本誌刊行の遅れに伴い、口頭発表と関連論文の公表時期が前後する場合があります。

⑯ 年会費（年度区切りは３月／４月）については規約に基づき全員から徴収します。対面学会のそのつどの聞き手についてはこれまでどおり当日参加費のみ。論文掲載に関する負担金については、投稿規程を参照。

⑰ 共同研究についても、当論輯に特集するとともに、共著単行本刊行を目指したく存じます。興味深いテーマを募集します。

⑱この論輯および学会、研究所へのお申し込み、ご意見などは、

japan.sccs@gmail.com にお寄せ下さい。

⑲この論輯の購入に関しては、事務局にＥメールで問い合わせてください。なお、上記⑦九州大学附属図書館学術情報リポジトリにはどなたでも世界中からアクセスでき、無償で読むことが出来ます。

⑳ 学会運営のスタッフや会費等は原則毎年度初頭（原則的に４月）に決定し承認しますが、緊急の議題に関してはそのかぎりではありません。

㉑本誌の著作権は総合文化学研究所に属します。但、当該原稿の著者自身に限り、その限りではありません。

㉒今後研究所や学会の組織編成など議論を重ねて有効なあり方を考えていきたいと存じます。ご意見やアイデアをお寄せ下さい。

㉓佐藤慶治理事にご苦労をおかけして総合文化学会のホームページを作って頂きました。アドレスは以下の通りです。

https://sogo-bunka-web.jimdosite.com

理事名簿（2026.5.1 現在）

施光恒・岩武光宏・山口誠・佐藤慶治・河村しのぶ

荒木正見（会長・総合文化学研究所理事長）